

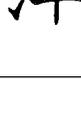
洋

三年

画数 9
筆順

一 二 三 四 五 六 七 八 九
ヨウ

成り立ち



羊 (3年 431) は、はらわたがとても長いので、長いもの

のたとえに「羊腸」ということばがあるほどです。その「羊」と、川のいみをあらわした「シ」とを組み合わせて作った字で、「川のとても長いこと」をあらわした字です。

「川が長くて広々としているようす」をあらわすのにつかわれましたが、のちに「海の広々としているようす」のいみにつかわれ、また、「海」のいみにもつかわれるようになりしました。〔例〕海洋、遠洋、太平洋。

また、西洋（西の海ということばですが「西の海にかが国ぐに」といういみでヨーロッパやアメリカの国ぐにのこと）といういみにもつかわれます。〔例〕洋式、洋風、洋服。

使い方

▽子どもには、洋々たる未来がひらけています。「少年よ大志をいだけ」という有名なことばがありますが、子どもたちには、ぜひ、大きな志をいだいてほしいものです。

▽日本は、太平洋という大きな海と、日本海という、ひかくてきせまい海にはさまれて、アジア大りの東のはしによこたわっています。

熟語例

▽海洋（大きな海。「海洋性気候」といえば、海にかこまれた土地の、あたたかく、しめった気候のこと。）

▽遠洋（りくから遠いところの海。「遠洋漁業」といえば、りく地から遠い海で魚取りのことです。）

▽洋式（西洋式、といういみです。西洋ふう、西洋のやり方、ということばです。洋式トイレといえ、こしかけてするおべんじよのことです。〔対〕和式）

▽洋風（西洋風、といういみです。「洋式」と同じいみです。「洋風のへや」などというふうに、つかいます。〔対〕和風）

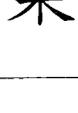
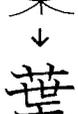
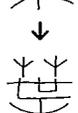
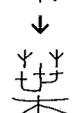
葉

三年

画数 12
筆順

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二
エフ

成り立ち



十 (1年 36) を三つかさねて「数が多いこと」をあらわした「世 (3年 349)」と、木とを組み合わせて、「木の中で数の多くあるもの」「はっぱ」をあらわした「葉」に、草の形をあらわした「艹」をくわえて作ったものです。「草や木の「は」といういみの字です。

「葉のようにうすくてひらたいもの」のいみや、そういうものを数えるのにつかわれることもあります。

〔葉は「木の葉」であり、葎は「草の葉」であり、葉は、「草や木の葉」であると考えられる。その考えて、わが国で作られたのが「笹」という字である。「ささぎ」をあらわした字であるが、「竹の葉」といういみで作られたものである。〕

使い方

▽秋になると、木の葉は赤や黄色に色づきます。秋のみみじは本当にきれいです。冬になると、落葉樹の葉は、すっかりおちてしまいます。でも、やがて、かわいらしいみどり色の若葉が芽生えて来て、春のおとずれをつげるのです。

▽ぼくは、いもうとに笹の葉で、木の葉舟を作っていました。いもうとは、小川に舟をうかべて、そつとふきました。すると、小さな木の葉舟は、水のながれにしたがって、川を下って行きました。

熟語例

▽落葉樹（冬になると葉をおとす木。秋になっても葉の色がかわらず、冬も葉をつけたままである木を「常緑樹」といいます。）

▽紅葉（もみじのこと。「紅葉」とも書きます。赤い葉は紅葉ですし、黄色い葉なら黄葉です。）

▽葉脈（木の葉の表面にあるすじ。水分やえいようがここを通ってはこばれます。）

▽薄葉（「薄様」とも書きます。薄くすいた紙の名前です。むかしは、これに、和歌などを書いたものでした。）